

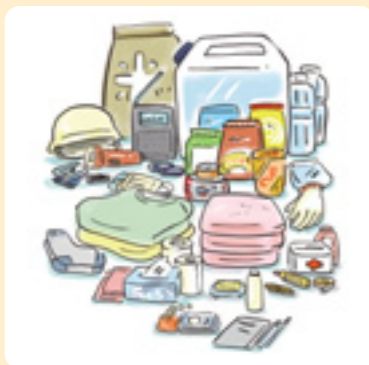
自助

自分でできる災害対策

自助とは、自分自身や家族の命と財産を守るために、自分で防災に取り組むことです。自分(家族)の身は自分(家族)で守る考えのもと、日常的な災害に対する備えや、災害時の対応を行っていくことです。非常時持ち出し品の準備・地域の避難所への経路確認など、個人でできる災害時のリスクを回避するための方法はたくさんあります。

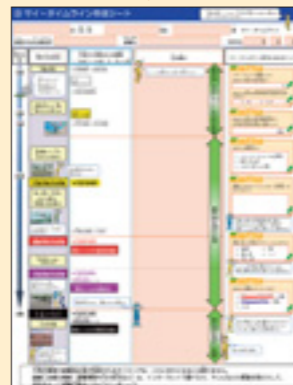
こんなにある、自分で身を守る方法

非常時持ち出し品の備蓄



救援物資は届くまでおよそ3日かかります。備蓄品は最低3日分用意しましょう。

避難行動計画の作成



自分自身の避難行動計画を作成し、災害時に落ち着いて行動できるようにしましょう。

自宅の家具の転倒防止



L字型金具や滑り止めシートで家具を固定し、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

このほかにも、家族同士で災害時の安否確認手段を話し合う、避難所生活になった際に役立つ情報を勉強しておくなど、できることはたくさんあります。広報ふじおか1日号に掲載しているふじおか防災トピックスでも災害時に役立つ情報を掲載していますので、ぜひ確認してください。

市公式LINEアカウントで自助をもっと手軽に

市公式LINEアカウントでは、防災情報や避難所・避難場所一覧、避難所の開設・混雑状況、経路確認、非常時持ち出し品、市の浸水想定区域などの情報を確認することができます。

市公式LINEアカウントを友だち追加すると、スマートフォンからいつでもどこでも防災情報を確認することができます。自助の意識向上や、自分自身で身を守るためにどんなことができるのかをすぐに確認できるので、災害時の備えに役立ててください。

下記の2次元コードを読み取るか、LINEの友だち追加から「@fujioakacity」をID検索し、リッチメニュー内の防災をタップしてください。平常時から避難行動や持ち出し品の確認、災害時のシミュレーションをしておきましょう。



市公式LINEアカウント



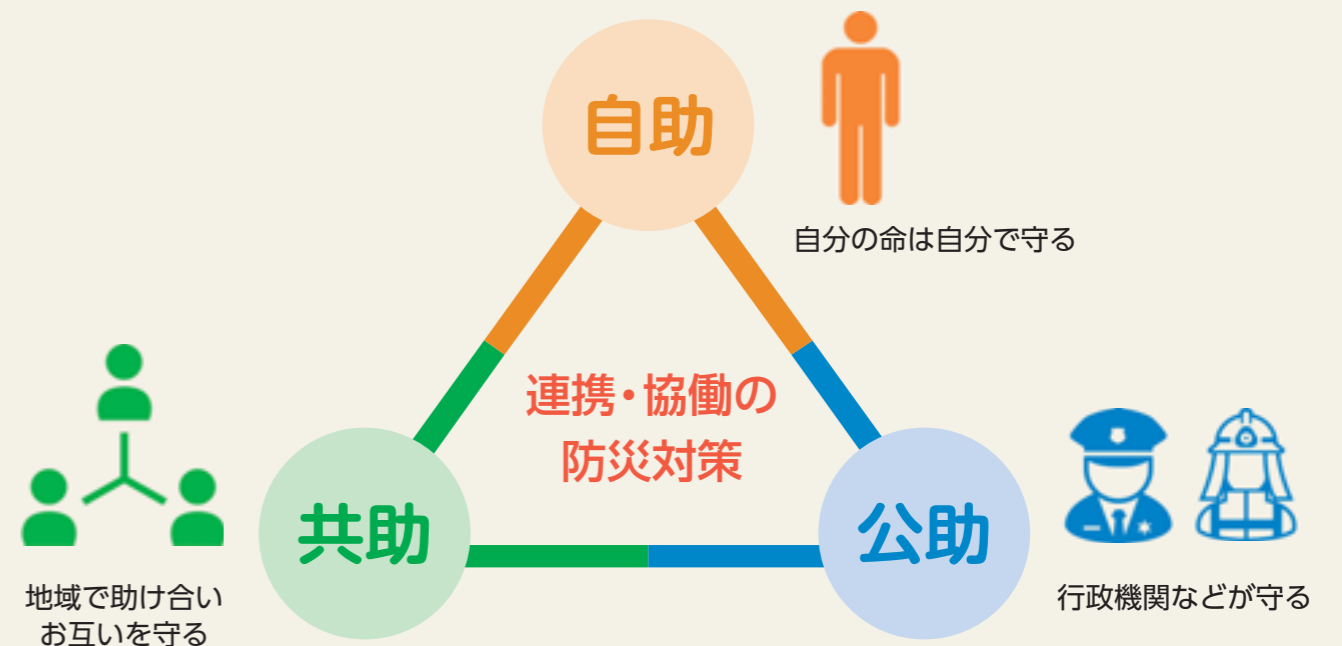
◆ 災害から身を守るための ◆

自助・共助・公助

1月1日に発生した令和6年能登半島地震は甚大な被害をもたらし、皆さんの記憶にも新しい出来事となっています。台風などの風水害と違い、地震はいつ発生するのか予測ができません。いつ起きるか分からない災害から自らの身を守るために、防災の基本である自助・共助・公助について今一度考えてみましょう。

問い合わせ 地域安全課(☎27444)

自助・共助・公助の仕組み

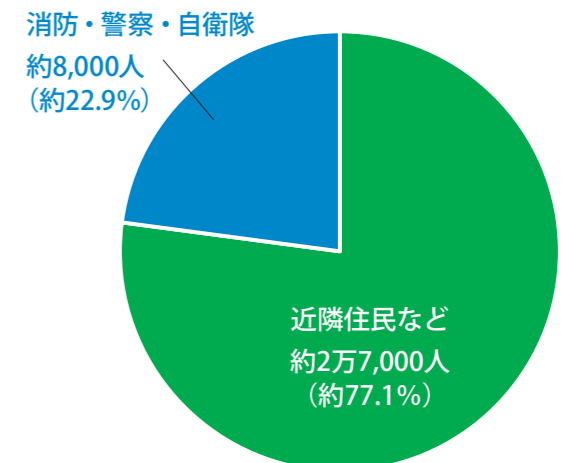


災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが災害対応力を高め、連携することが大切です。

防災対策は上記の図のように自助・共助・公助を連携させながら行う必要がありますが、大きな災害が発生すると、行政機関などからの支援には時間がかかる場合があります。実際に1995年に発生した阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数は、近隣住民などが約2万7,000人、消防・警察・自衛隊による救出者数が約8,000人となっています。

そのため、被害をできるだけ最小限にするには、自分で自分を守る「自助」と、居住地域や身近にいる人同士でお互いを助け合う「共助」がとても重要となってきます。

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



出典：内閣府令和6年版防災白書